

平成24年3月1日

県内ボーイスカウト各団

団委員長様

日本ボーイスカウト岡山連盟

事務局長 今田 惇治

野外活動における放射能対応について

このことについて、日本連盟コミッショナーから別紙のとおり通知が有りましたので、ここに連絡しますので団内への周知方よろしく申し上げます。

全県連盟宛 H23-107 号(総)  
平成 24 年 2 月 24 日

ボーイスカウト都道府県連盟  
理事長 各位  
県連盟コミッショナー 各位

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟  
日本連盟コミッショナー 新藤 信夫  
( 公 印 省 略 )

## 野外活動における放射能対応について

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災に関連して発生した、福島第一原子力発電所の事故の影響により、一部の地域では野外・屋内でのスカウト活動の自粛や停止をせざるを得ない状況となり、大変苦慮されていると伺っております。このことについては、昨年 7 月 15 日付で発信した文書「夏季の諸活動に向けて」でも、その対応について触れておりますが、今般、開催した全国県連盟コミッショナー会議の幹事会席上におきましても、その後の状況に鑑み考え方を示してほしいとの要望が出されました。

つきましては、以下に考え方とその留意点をお示いたします。

この問題は現代社会において未知の領域でもあり、また地域により状況が大きく異なること、並びに個人によって受け取り方や考え方に相違があること等々を十分踏まえて、スカウト活動を展開していただくことをお願い申し上げます。

### 考え方と留意事項

1. 指導者は、放射能とその影響について正しく理解し知識を身に付けて下さい。
2. 基本的には、文部科学省で発行している「放射能を正しく理解するために」  
「教育現場の皆様へ」と「保護者の皆様へ」を参考にして下さい。
3. しかしながら、状況は地域によって大きく違いますので、地域の行政機関なら  
び学校などから、確かな情報を受けて行動されることをお勧め致します。
4. 放射能問題について、保護者会等を開いて、保護者と共に学ぶことによって共  
通理解を深め、保護者と指導者、スカウトが正確な情報の下で行動して下さい。
5. 放射能は伝染しませんが、不安な気持ちは伝わります。不確かな情報や人の噂  
に惑わされずに正しい知識と情報により、楽しいスカウト活動を展開されるこ  
とに心がけて下さい。

### 参考資料

1. 「放射能を正しく理解するために」教育現場の皆様へ：文部科学省 平成 23 年  
6 月 24 日  
(本資料の心のケアについては、日本小児心身医学会の指導・協力で作成されて  
います。)  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/other/detail/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2011/06/24/1305089\\_0624\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/__icsFiles/afieldfile/2011/06/24/1305089_0624_1.pdf)

この件についての問い合わせ先 事務局 総務部総務課 Tel. 03-5805-2561

# 保護者の皆様へ

## ○原発と放射線の今の状況

福島第一原発から大気中に出る放射性物質の量は、3月17日以降ずっと減っています。大気中の放射線量は、各地で「横ばい」か「減少中」です。

一方、3月15日以降、地面や建物に降り積もった放射性物質には一定の注意が必要です。

## ◎屋外や屋内の放射線量は？

一屋内の方が低くなります。  
また、木造建物よりコンクリート建物の方がより低くなります。

壁により一部の放射線が遮られます



## Q. 私たちの学校、私たちの住んでいる地域は大丈夫？

放射線によって健康への影響が出るおそれのある区域には、すでに避難指示が出ていますので、逆に指示が出ていない地域は過度に心配しないで下さい。



### 目安となる放射線の量

国際放射線防護委員会（ICRP）は、3月21日に「今回のような非常事態が収束した後の一般公衆における参考レベルとして、1～20ミリシーベルト／年の範囲で考えることも可能」と声明を出しました。

1日の生活パターンを8時間の屋外活動及び16時間の屋内（木造建物）活動と仮定して単純に計算すると、屋外で3.8マイクロシーベルト／時となります。屋外活動の時間を減らせば、1年間で受ける放射線の総量は当然少なくなります。

- 今回、屋外3.8マイクロシーベルト／時を越えない学校は、校舎・校庭などを平常通り利用しても差し支えないと判断しました。
- 一方、屋外3.8マイクロシーベルト／時を越える学校では、屋内活動は問題ありませんが、念のため、当面、校庭・園庭での活動を1日あたり1時間程度とするなど、**学校内外での屋外活動をなるべく制限**してください。（これらの学校で屋外3.8マイクロシーベルト／時を下回る値が連続して測定された場合には、活動の制限を解除します。）  
なお、比較的高い放射線量が測定された学校には、線量計を配布して、学校での線量を把握できるようにします。

## Q. 何に気をつければいいのか？

- ・ 土や砂を口に入れない
- ・ 飲料水以外の川や水たまりの水を口にしない
- ・ 外で遊んだら手や顔についた土や砂をよく洗い落とす
- ・ 服についたほこりを払い落としてから教室や家に入る
- ・ 洗髪は通常通り行っていけば安心
- ・ 雨が降ったらカサをさした方が安心



## ○子どものこころのケア

災害時の子どものこころのケアとしては、普通の生活を送るよう心がけることが大切です。保護者のふさぎ込んだ気分や不安は、子どものこころの不安定さにつながります。保護者が正確な知識を持ち（流通している食品は安全であること、放射線は感染しないことなど）、必要以上に心配しすぎないことが重要です。

いじめや心的外傷後ストレス障害（PTSD）などは、病院の専門窓口などに御相談ください。